

第二回 患者視点の医療情報を活用する データ・マーケティングシンポジウム開催案内

日程：2010年11月29日(月)13:30受付開始

会場：トラストシティカンファレンス・丸の内(JR東京駅日本橋口徒歩1分)

主催：株式会社 医療情報総合研究所

開催趣旨

これまでの日本国内の製薬企業の営業・マーケティング活動では、医師に対する活動と医療機関への納入情報が重視されてきました。そのモデルの中では、医療の最終消費者である患者の声や行動が十分に反映されているとは言えませんでした。

製剤技術等では先行している製薬会社の患者志向の企業活動ですが、営業・マーケティング活動においても医師の処方実態、患者の意見や行動理由をさらに取り入れることで、顧客満足最大化、ひいては売上規模の最大化を実現できる可能性があるのではないのでしょうか。

このような背景の下、医師の投与履歴である処方データを代表とする患者に紐づくデータを活用した製薬マーケティング活動の進展を支援すべく、今回のシンポジウムを開催することと致しました。皆様と共に製薬業界の新しいデータに支えられた製薬マーケティングのあり方を考えていきたいと思っております。趣旨にご賛同頂き、シンポジウムにご参加いただけますことをお願いいたします。

第二回 シンポジウム講演

『医療経済分析における処方データの利用』

クレコンリサーチアンドコンサルティング株式会社 医療アセスメント研究部 部長 小林 慎氏

『処方データを使った21世紀の「医薬品マーケティング」

第二回：医薬品産業の視点を変える処方データ ~ Marketing and beyond ~ 』

グラクソ・スミスクライン株式会社 コマーシャル企画部門 マネージャー 清水 央子氏

議論するテーマ

- ◆ 処方情報を活用したマーケティングの考え方
- ◆ 各種医薬品市場データ(卸出荷データ、処方データ等)の特徴と使い方
- ◆ 製薬企業のマーケティング・調査部門における市場データの利活用例
- ◆ 同プロダクトマネジメント部門における市場データの利活用例
- ◆ 医薬関連サービス業における市場データの利活用例
- ◆ 行政/研究機関での利活用例



当シンポジウムのご案内は、製薬企業の営業、マーケティング、事業企画部門のスタッフ、管理職、役員の皆様、ならびに医薬関連サービス企業のスタッフ、管理職、役員の皆様にお送りしております。

第二回 患者視点の医療情報を活用する データ・マーケティングシンポジウム開催案内

スケジュール

日程：2010年11月29日(月)

13:30 ~	受付開始
14:00 ~ 14:10	ご挨拶 株式会社 医療情報総合研究所 代表取締役社長 大橋 青史
14:10 ~ 15:20	ご講演: クレコリサーチアンドコンサルティング 株式会社 部長 小林 慎氏
15:20 ~ 15:35	休憩(1) コーヒー・ブレイク
15:35 ~ 16:50	ご講演: グラクソ・スミスクライン 株式会社 マネージャー 清水 央子氏
16:50 ~ 17:00	休憩(2)
17:00 ~ 17:45	『治療の流れを可視化する新しい分析アプローチのご提案』 株式会社 医療情報総合研究所
18:00 ~ 20:00	懇親会

都合により講演者と演題は変更になる場合がございます。

会場

トラストシティ カンファレンス・丸の内
東京都千代田区丸の内1-8-1
丸の内トラストタワー N館3階
TEL: 03-6212-5211

交通のご案内

JR 「東京駅」日本橋口より徒歩1分
地下鉄 「大手町駅」 B7出口より徒歩2分
「日本橋駅」 A3 出口より徒歩4分

参加費とお申込方法について

事前振込
・第二回申込 6,000円
・第二回・三回申込 11,000円

当日現金でのお支払い
・第二回申込 7,000円
・第二回・三回申込 13,000円

資料代、懇親会代、消費税含まれます。



- ◆ 別紙「参加申込用紙」に必要事項をご記入の上、ファックス(03-5802-4550)、または同内容を e-mail (dms@jmiri.jp) でお申込ください。
- ◆ 申込用紙はホームページ (<http://www.jmiri.jp/>) からダウンロードできます。
- ◆ 第二回の申込期限は2010年11月22日です。なお、会場の都合により製薬企業以外の方はお申込をお断りさせていただく場合がございますので、予めご了承くださいませようお願いします。
- ◆ 参加費は「振込」、または「当日現金」でお支払いください。振込の場合はお申込を承り次第、請求書を発行しますのでお手続きをお願いいたします。但し、支払い方法に関わらず、ご参加の申込は必ず事前をお願いいたします。
- ◆ ご不明な点は、株式会社医療情報総合研究所 (TEL:03-5842-2477、e-mail: dms@jmiri.jp、担当 畠山) までお問い合わせください。

主催：株式会社 医療情報総合研究所

第二回 患者視点の医療情報を活用する データ・マーケティングシンポジウム

ご講演内容

『医療経済分析における処方データの利用』

講師 : 小林 慎 氏
クレコン・リサーチアンドコンサルティング株式会社 医療アセスメント研究部長

略歴

横浜国立大学大学院工学研究科修士課程工学修士、アンダーセンコンサルティング(現アクセンチュア)を経て、クレコンリサーチ&コンサルティング株式会社入社。東北大学薬学部非常勤講師、多摩大学医療リスクマネジメントセンター・シニアフェローを兼務。ISPOR日本支部理事、DPCマネジメント研究会理事を歴任。医薬情報誌『MONTHLYミクス』にて、「薬剤経済学の真髄」を執筆中。

講演の概要

急増する医療費は、我が国だけでなく先進国共通の政策課題となっており、新規医療技術の導入可否を評価する医療技術評価(HTA)のプロセスの一部として医療経済分析を位置づける動きが急速に広まっている。

医療経済分析では、臨床試験に代表される実験環境下の情報とともに、実際の医療現場における情報(real-world setting)を活用することが近年求められつつある。

我が国でreal-world settingにおける医療経済分析を行う際に、レセプトデータは非常に貴重な情報源となる。本稿では医療経済分析の基本的概念とレセプトデータの活用方法について概説する。

『処方データを使った21世紀の「医薬品マーケティング」

第二回: 医薬品産業の視点を変える処方データ ~ Marketing and beyond ~

講師 : 清水 央子 氏
グラクソ・スミスクライン株式会社 コマーシャル企画部門 マネージャー

略歴

東京工業大学にて統計学修士号取得。McKinsey他のコンサルティングファームで日米間をベースにコンサルティングを経験。帰国後、医療機器メーカーでマーケティング戦略を担当。グラクソ・スミスクライン(GSK)では、Evidence-Based Marketingを推進するグループのリーダーとして、各種医療データに基づく患者ベースのマーケットモデル構築などを推進。同時に東京医科歯科大学大学院博士課程にて、医療データの効果的な構築と活用を研究中。

講演の概要

第一回では、“売上データ依存からの脱却”をテーマに、各種医療データの位置づけ、各処方データの特徴を踏まえて、マーケットモデルに基づいた市場の捉え方の具体例を示した。

第二回では、『患者数』の考え方を明確にした上で、拡大推計の手法から患者数の推定方法を例示し、市場予測やマーケティング戦略への利用方法などを紹介する。さらに処方データの、SCMや販売戦略などマーケティングの枠を超えた製薬ビジネス全般への応用についても議論を深める。

第一回シンポジウムご来場者の声

- ◆ 非常に有意義なセミナーでした。ぜひ次回も参加したいと考えます。
- ◆ 具体的な分析の切り口をご提示頂いた点が勉強になりました。
- ◆ 競合製品との中でシェアの捉え方の実態や現状が理解できた。
- ◆ GSK清水様の売上データ依存からの脱却については興味深く伺いました。
- ◆ 清水様の話は非常に興味深く拝聴しました。次回もぜひお聞きしたいです。
- ◆ 処方データの活用がこれからのトレンドを確立することが感じられました。